

## 地域包括ケアシステム維持のための ICT の活用に関する研究会（第 3 回）議事概要

1 日 時 令和 5 年 4 月 26 日（水） 10:00～12:00

2 場 所 東北厚生局 16 階会議室

3 出席者

（構成員等）

藤田構成員（座長）、大坂構成員、佃構成員、平田構成員

石井教授（東北工業大学）、青田所長（青森県介護啓発・福祉機器普及センター）  
（事務局）

井原局長、鈴木健康福祉部長、宮澤地域包括的支援構築施策分析官、  
佐藤地域包括ケア推進課長

4 議事概要

事務局より資料 1 に基づき、東北各県の地域医療介護総合確保基金による「介護ロボット導入支援事業」の実績について説明。その後、青田所長、石井教授より資料 2 及び資料 3 に基づき ICT 活用に関する取組等についてご講演をいただき、質疑、意見交換が行われた。

〔主な意見〕

- 介護ロボットの導入に向けてプロセスや課題が一般化できると導入し易くなる。
- 独居や認知症の高齢者が ICT を活用していくことは難しいのではないか。
- 介護現場等ではテクノロジーや ICT という言葉への抵抗感があるため、導入に向けては際立たせないことが重要である。
- ICT の普及のためには、いずれロボットではなく単なる便利な道具と言われるようになることが必要。
- 介護ロボットの導入に対して否定なスタッフの理解の醸成や介護ロボット導入後のフォロー（メンテナンス等）についても留意する必要がある。
- 介護ロボットの導入により人材不足の解消や定着率の改善が図れる。
- ICT の中にも身近なものから大きな機械までであるため、当事者がどう関わられるか掘り下げていく必要がある。
- 介護ロボットの導入の効果により生み出された時間を、高齢者の QOL 向上へ充てることのできるよう介護従事者への教育も大事。

以上